

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成25年2月8日

**【四半期会計期間】** 第116期第3四半期  
(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

**【会社名】** 鹿島建設株式会社

**【英訳名】** KAJIMA CORPORATION

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 中村満義

**【本店の所在の場所】** 東京都港区元赤坂一丁目3番1号

**【電話番号】** 03(5544)1111 代表

**【事務連絡者氏名】** 執行役員財務本部主計部長 中谷俊信

**【最寄りの連絡場所】** 東京都港区元赤坂一丁目3番1号

**【電話番号】** 03(5544)1111 代表

**【事務連絡者氏名】** 執行役員財務本部主計部長 中谷俊信

**【縦覧に供する場所】** 鹿島建設株式会社 関西支店  
(大阪市中央区城見二丁目2番22号)

鹿島建設株式会社 中部支店  
(名古屋市中区新栄町二丁目14番地)

鹿島建設株式会社 横浜支店  
(横浜市中区太田町四丁目51番地)

鹿島建設株式会社 関東支店  
(さいたま市大宮区下町二丁目1番地1)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

株式会社名古屋証券取引所  
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第115期 第3四半期 連結累計期間	第116期 第3四半期 連結累計期間	第115期
会計期間		自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高	(百万円)	1,018,098	1,030,248	1,457,754
経常利益	(百万円)	29,173	29,542	41,343
四半期(当期)純利益	(百万円)	3,247	16,892	3,833
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	6,229	27,407	11,388
純資産額	(百万円)	239,619	278,061	256,705
総資産額	(百万円)	1,639,506	1,628,567	1,686,221
1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	3.13	16.26	3.69
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	14.6	17.2	15.2

回次		第115期 第3四半期 連結会計期間	第116期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額( )	(円)	2.69	7.53

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2 売上高には、消費税等は含まれていない。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが営んでいる事業の内容に重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はない。

### 2 【経営上の重要な契約等】

特記事項なし。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間の我が国経済は、東日本大震災からの復旧・復興の進展等を背景に一部では持ち直しの動きがみられたものの、海外経済の低迷やデフレ基調の継続により企業収益や設備投資は低調に推移し、景気は足踏みする状況となった。

国内建設市場においても、公共投資は復興需要を中心に堅調に推移した一方で、民間設備投資は力強さを欠き、建設投資全体では低水準に留まったことから、依然として厳しい経営環境が続いた。

こうした中、当第3四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、次のとおりとなった。

建設事業受注高は、当社における減少を主因として、前年同四半期連結累計期間比6.7%減の8,333億円（前年同四半期連結累計期間は8,929億円）となった。なお、当社の受注高は、開発事業等を含めて同11.8%減の6,638億円（前年同四半期連結累計期間は7,525億円）となった。

売上高は、前年同四半期連結累計期間と同水準で推移し、前年同四半期連結累計期間比1.2%増の1兆302億円（前年同四半期連結累計期間は1兆180億円）となった。

営業利益は、当社及び海外関係会社の売上総利益が増加したことを主因として、前年同四半期連結累計期間比15.1%増の243億円（前年同四半期連結累計期間は211億円）となった。

経常利益は、営業外収益が減少したこともあり、前年同四半期連結累計期間比1.3%増の295億円（前年同四半期連結累計期間は291億円）となった。

四半期純利益は、特別損益の改善に加え、前年同四半期連結累計期間に法人税率の変更による繰延税金資産の取崩しに伴い法人税等調整額を計上したことの反動もあり、前年同四半期連結累計期間比420.1%増の168億円（前年同四半期連結累計期間は32億円）となった。

なお、第2四半期連結累計期間において、減損処理による投資有価証券評価損58億円を計上したが、その後の株式市況の回復に伴い時価が上昇したことから、当第3四半期連結累計期間における投資有価証券評価損は12億円となった。（四半期における有価証券の評価方法は洗替え方式を採用している。）

セグメントの業績は次のとおりである。（セグメントの業績については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載している。）

#### 土木事業

（当社における建設事業のうち土木工事に係る事業）

完成工事高は、前年同四半期連結累計期間と同水準で推移し、2,067億円（前年同四半期連結累計期間は2,068億円）となった。

営業利益は、完成工事総利益率の向上により、前年同四半期連結累計期間比155.5%増の75億円（前年同四半期連結累計期間は29億円）となった。

## 建築事業

(当社における建設事業のうち建築工事に関する事業)

完成工事高は、前年同四半期連結累計期間と同水準で推移し、前年同四半期連結累計期間比1.1%増の5,360億円(前年同四半期連結累計期間は5,304億円)となった。

営業利益は、完成工事総利益の増加を主因として、前年同四半期連結累計期間比11.0%増の105億円(前年同四半期連結累計期間は95億円)となった。

## 開発事業等

(当社における都市開発、地域開発など不動産開発全般に関する事業及び意匠・構造設計、その他設計、エンジニアリング全般の事業)

売上高は、前年同四半期連結累計期間に大型販売物件の完成引渡しがあったことから、前年同四半期連結累計期間比33.4%減の296億円(前年同四半期連結累計期間は444億円)となった。

営業損益は、売上高の減少及び売上総利益率の低下により、8億円の損失(前年同四半期連結累計期間は7億円の利益)となった。

## 国内関係会社

(当社の国内関係会社が行っている事業であり、主に日本国内における建設資機材の販売、専門工事の請負、総合リース業、ビル賃貸事業等)

売上高は、前年同四半期連結累計期間と同水準で推移し、前年同四半期連結累計期間比4.5%増の2,185億円(前年同四半期連結累計期間は2,091億円)となった。

営業利益は、一部の連結子会社において売上総利益率が低下したことを主因として、前年同四半期連結累計期間比28.4%減の42億円(前年同四半期連結累計期間は59億円)となった。

## 海外関係会社

(当社の海外関係会社が行っている事業であり、米国、欧州、アジアなどの海外地域における建設事業、開発事業等)

売上高は、建設事業受注高が堅調に推移したことから完成工事高が増加し、前年同四半期連結累計期間比16.4%増の1,306億円(前年同四半期連結累計期間は1,122億円)となった。

営業利益は、売上高の増加に伴い売上総利益が増加したことを主因として、前年同四半期連結累計期間比117.2%増の35億円(前年同四半期連結累計期間は16億円)となった。

## (2) 財政状態の分析

資産合計は、前連結会計年度末比576億円減少し、1兆6,285億円(前連結会計年度末は1兆6,862億円)となった。これは、受取手形・完成工事未収入金等の減少437億円等によるものである。

負債合計は、前連結会計年度末比790億円減少し、1兆3,505億円(前連結会計年度末は1兆4,295億円)となった。これは、支払手形・工事未払金等の減少491億円等によるものである。当第3四半期連結会計期間末の有利子負債残高は、5,212億円(前連結会計年度末は5,257億円)となった。

純資産合計は、株主資本2,459億円、その他の包括利益累計額337億円、少数株主持分16億円を合わせて、前連結会計年度末比213億円増加の2,780億円(前連結会計年度末は2,567億円)となった。

また、当第3四半期連結会計期間末の自己資本比率は、前連結会計年度末比2.0ポイント好転し、17.2%(前連結会計年度末は15.2%)となった。

(注) 短期借入金、コマーシャル・ペーパー、社債(1年内償還予定の社債を含む)及び長期借入金の合計額

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した「対処すべき課題」についての重要な変更はない。

## (4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における当社グループの研究開発費の総額は60億円である。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,500,000,000
計	2,500,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年2月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,057,312,022	1,057,312,022	東京証券取引所 市場第一部 大阪証券取引所 市場第一部 名古屋証券取引所 市場第一部	単元株式数は1,000株 である。
計	1,057,312,022	1,057,312,022		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年10月1日 ～平成24年12月31日		1,057,312,022		81,447,203		20,485,062

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができないため、直前の基準日である平成24年9月30日の株主名簿により記載している。

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等) (注) 1	普通株式 16,901,000		
完全議決権株式(その他) (注) 2	普通株式 1,035,237,000	1,035,237	
単元未満株式	普通株式 5,174,022		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	1,057,312,022		
総株主の議決権		1,035,237	

(注) 1 「完全議決権株式(自己株式等)」は、当社保有の自己株式16,901,000株である。

2 「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が5,000株(議決権5個)含まれている。

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
鹿島建設株式会社	東京都港区元赤坂一丁目3番1号	16,901,000		16,901,000	1.60
計		16,901,000		16,901,000	1.60

2 【役員の状況】

該当事項なし。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載している。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金預金	162,217	158,285
受取手形・完成工事未収入金等	2, 3 503,867	2 460,127
営業投資有価証券	16,790	16,788
販売用不動産	78,801	81,241
未成工事支出金	64,273	62,795
開発事業支出金	73,084	74,616
その他のたな卸資産	10,255	12,103
その他	2 151,680	2 138,367
貸倒引当金	1,908	1,826
流動資産合計	1,059,060	1,002,501
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
土地	197,531	196,894
その他(純額)	148,111	144,331
有形固定資産合計	345,642	341,225
<b>無形固定資産</b>		
無形固定資産	6,462	5,888
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	199,857	208,182
その他	88,847	83,334
貸倒引当金	13,650	12,565
投資その他の資産合計	275,055	278,951
固定資産合計	627,160	626,066
資産合計	1,686,221	1,628,567

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	2 466,237	2 417,103
短期借入金	188,303	278,743
コマーシャル・ペーパー	63,000	28,000
1年内償還予定の社債	20,000	30,000
未成工事受入金	96,058	97,046
工事損失引当金	26,150	21,113
その他の引当金	4,690	4,170
その他	2 163,102	142,195
流動負債合計	1,027,542	1,018,372
固定負債		
社債	105,000	105,000
長期借入金	149,409	79,546
退職給付引当金	61,170	61,559
その他	86,392	86,027
固定負債合計	401,972	332,133
負債合計	1,429,515	1,350,506
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	81,447	81,447
資本剰余金	45,304	45,304
利益剰余金	112,774	125,305
自己株式	6,068	6,077
株主資本合計	233,457	245,980
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25,960	34,730
繰延ヘッジ損益	1,442	1,399
土地再評価差額金	19,818	19,491
為替換算調整勘定	21,078	19,109
その他の包括利益累計額合計	23,257	33,713
少数株主持分	9	1,631
純資産合計	256,705	278,061
負債純資産合計	1,686,221	1,628,567

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
<b>売上高</b>		
完成工事高	894,250	918,818
開発事業等売上高	123,848	111,429
売上高合計	1,018,098	1,030,248
<b>売上原価</b>		
完成工事原価	827,243	847,429
開発事業等売上原価	109,061	97,653
売上原価合計	936,304	945,082
<b>売上総利益</b>		
完成工事総利益	67,007	71,389
開発事業等総利益	14,786	13,776
売上総利益合計	81,793	85,165
販売費及び一般管理費	60,646	60,835
営業利益	21,147	24,330
<b>営業外収益</b>		
受取配当金	4,936	4,044
開発事業関連違約金収入	6,000	3,610
その他	6,778	5,059
営業外収益合計	17,715	12,713
<b>営業外費用</b>		
支払利息	5,470	4,846
その他	4,218	2,654
営業外費用合計	9,689	7,501
経常利益	29,173	29,542
<b>特別利益</b>		
投資有価証券売却益	233	2,553
その他	253	722
特別利益合計	486	3,275
<b>特別損失</b>		
投資有価証券売却損	0	1,320
投資有価証券評価損	1,196	1,201
その他	7,268	1,616
特別損失合計	8,465	4,137
税金等調整前四半期純利益	21,195	28,680
法人税、住民税及び事業税	2,751	4,184
法人税等調整額	14,607	7,648
法人税等合計	17,359	11,833
少数株主損益調整前四半期純利益	3,835	16,847
少数株主利益又は少数株主損失( )	587	44
四半期純利益	3,247	16,892

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	3,835	16,847
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,074	8,772
繰延ヘッジ損益	239	27
土地再評価差額金	4,178	12
為替換算調整勘定	5,219	2,628
持分法適用会社に対する持分相当額	289	854
その他の包括利益合計	10,064	10,560
四半期包括利益	6,229	27,407
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,777	27,661
少数株主に係る四半期包括利益	548	253

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	
(1) 連結の範囲の重要な変更	第1四半期連結会計期間に、カジマ ヨーロッパ リミテッドの連結子会社1社について、株式の売却により関連会社となったため、連結の範囲から除外し持分法を適用することとした。また、カジマ・ヨーロッパ・U.K.・ホールディング・リミテッドの連結子会社2社は清算し、カジマ ヨーロッパ リミテッドの連結子会社1社は株式を売却したため、連結の範囲から除外した。 当第3四半期連結会計期間から、カジマ ユー エス エー インコーポレーテッドの連結子会社1社について、株式の取得により子会社となったため、新たに連結の範囲に含めることとした。また、カジマ・ヨーロッパ・U.K.・ホールディング・リミテッドの連結子会社2社は清算したため、連結の範囲から除外した。
(2) 持分法適用の範囲の重要な変更	第1四半期連結会計期間に、株式の取得により関連会社となった2社及び株式の売却により連結の範囲から除外した関連会社1社について、新たに持分法を適用している。また、非連結子会社1社は合併により消滅した。 第2四半期連結会計期間に、株式の取得により関連会社となった1社について、新たに持分法を適用している。また、株式の売却により、非連結子会社から関連会社となった1社は従来どおり持分法を適用し、非連結子会社1社は持分法適用の範囲から除外した。 当第3四半期連結会計期間から、株式の取得により関連会社となった1社について、新たに持分法を適用している。

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)	国内連結会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間から、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更している。 この変更による損益への影響は軽微である。

## 【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

## 1 偶発債務

## (1) 保証債務

下記の会社等の銀行借入金等について保証を行っている。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
	百万円	百万円
関係会社	2,074	2,023
その他	8,289	8,227
計	10,363	10,251

なお、再保証のある保証債務については、当社の負担額を記載している。

## (2) その他

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
	百万円	百万円
ドバイメトロプロジェクトの工事代金 回収に関する偶発債務 (債務者 ドバイ道路交通局)	30,788	28,690

なお、上記の偶発債務は、アラブ首長国連邦ドバイ首長国の財政破綻又は国家破綻によるデフォルトリスクに限定されている。

## 2 四半期連結会計期間末日の満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理している。

なお、当第3四半期連結会計期間の末日は金融機関の休日であったため、次の満期手形が当第3四半期連結会計期間末日の残高に含まれている。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
	百万円	百万円
受取手形	3,222	2,175
流動資産「その他」(営業外受取手形)	401	181
支払手形	5,516	6,068
流動負債「その他」(営業外支払手形)	7	

## 3 債権流動化による完成工事未収入金の譲渡高

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
	百万円	百万円
	20,159	

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産及び長期前払費用等に係る償却費を含む。)並びにのれん及び負ののれんの償却額は、次のとおりである。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
	百万円	百万円
減価償却費	13,137	13,132
のれんの償却額	347	361
負ののれんの償却額	486	486

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	3,123	3.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金
平成23年11月10日 取締役会	普通株式	3,122	3.00	平成23年9月30日	平成23年12月2日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項なし。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	2,080	2.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金
平成24年11月13日 取締役会	普通株式	2,601	2.50	平成24年9月30日	平成24年12月4日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項なし。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	土木事業	建築事業	開発事 業等	国内 関係会社	海外関 係会社	計		
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	206,882	529,413	42,804	126,807	112,190	1,018,098		1,018,098
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高		994	1,648	82,297	10	84,952	(84,952)	
計	206,882	530,407	44,453	209,105	112,201	1,103,050	(84,952)	1,018,098
セグメント利益	2,947	9,523	791	5,948	1,638	20,850	297	21,147

(注) 1 セグメント利益の調整額297百万円は、セグメント間取引消去等によるものである。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期連結累計期間において、賃貸用資産に係る減損損失5,827百万円を特別損失に計上している。なお、減損損失は事業セグメントに配分していない。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注) 2
	土木事業	建築事業	開発事 業等	国内 関係会社	海外関 係会社	計		
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	206,796	532,924	28,378	131,530	130,618	1,030,248		1,030,248
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高		3,086	1,232	87,006	11	91,336	(91,336)	
計	206,796	536,010	29,610	218,536	130,629	1,121,584	(91,336)	1,030,248
セグメント 利益又は損失( )	7,533	10,574	871	4,257	3,558	25,052	(721)	24,330

(注) 1 セグメント利益又は損失( )の調整額 721百万円は、セグメント間取引消去等によるものである。

2 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項なし。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	3.13円	16.26円
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	3,247	16,892
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	3,247	16,892
普通株式の期中平均株式数(千株)	1,038,920	1,038,813

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2【その他】

中間配当に関する取締役会の決議は、次のとおりである。

決議年月日	平成24年11月13日
中間配当金の総額	2,601,027,130円
1株当たりの額	2円50銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成24年12月4日

(注) 平成24年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、支払いを行う。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月7日

鹿島建設株式会社  
取締役会御中

### 有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 川上 豊

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鈴木 登樹男

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている鹿島建設株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、鹿島建設株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管している。  
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。